

園長だより 「非認知能力を育てる」 第19号

今回は第18号で触れた「非認知能力」を育てるために大切なこと（4つのキーワード）について考えていきたいと思います。

「非認知能力」とは・・・？

数値で表すことのできる「認知能力」と違って、数値で表すことのできない能力。粘り強く頑張る力、コミュニケーション力、自制する力、協調する力などのこと。「生きる力」のベースになるものです。

お子さんの非認知能力を育てていく上で大切なこと。その一つ目のキーワードは「愛情」です。保護者の皆さんが見返りを求めない愛情を注ぐことでお子さんは「愛されている」という安心感や皆さんへの信頼感を手に入れることとなります。お子さんが「わたしはわたしのままでいいんだ」と感じることで自己肯定感が育まれ、それがポジティブに前へ進む原動力になるのです。

2つ目のキーワードは「好奇心」です。お子さんの好奇心を尊重してほしいのです。お子さんは自分が興味のあることに取り組むことで意欲を伸ばしたり、工夫したりすることを覚えます。私たち大人にとっては「なぜこんなことを一生懸命しているのだろう」と思うことがあっても、それが危険でない限り、そっと見守ってあげてください。大人にとっては無駄なように思えることも子ども達はそこから多くのことを学んでいるのです。

3つ目のキーワードは「共感」です。お子さんの気持ちに寄り添ってあげるということです。私が小学生の頃、母は友だちとケンカしたことなどを話すと「そうなんや。悔しかったんやね。」「そうか。そこが嫌やったんや。」と先ず私の気持ちをしっかり受け入れてくれました。そのことで私は安心感に包まれ、その後、母が話す言葉を素直に聞くことができました。「そうなんや。」と先ずお子さんの気持ちに共感してあげてください。

最後のキーワードは「自信」です。お子さんに自信を持たせるためにしっかりほめてあげてほしいです。成功体験をさせることももちろん大切ですが、成功したことだけをほめるのではなく「よく努力したね。」「粘り強く頑張ったね。」とお子さんが努力したことをほめてあげてください。さらに「生まれてきてくれてありがとう。」「大好きだよ。」とお子さんの存在そのものを認めるといことも大きな自信につながります。

この4つのキーワードは城東ちどり保育園の先生方も大切にしています。保育・教育という形でお子さんに関わらせていただいているので、保護者の皆さんとはその表現の仕方に若干の違いはあるのかもしれませんが、でも、お預かりしている子ども達に「愛情」を注ぎ、子ども達の「好奇心」を大切に、子ども達の心に「共感」し、寄り添い、様々な成功体験をさせる中でその努力を認め、ほめることで「自信」につなげていくということでは共通していると考えています。